



～学校のイロイロ！～

● 学校には、いろいろな仕事をする教職員がいます！

学校には、校長をはじめ、教頭、学年主任、担任、養護教諭など、毎日勤務する先生や事務職員がいます。また、必要に応じて勤務する栄養教諭、部活指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、語学補助員、学校司書、調理師、用務員など、さまざまな職種の教職員がいます。みんな、それぞれの専門分野を生かしながら、子どもたちのために学校で働いています。



● 日本では、4月から新学期が始まります！

みなさんの母国と日本とでは、年齢の数え方や、新学期のスタート時期が違うことがあります。世界中の多くの国々では9月に新学期が始まりますが、日本の新学期は、4月から始まります。そして、学年が上がるとともに、担任の先生や教室の場所、一緒に勉強する友達もかわる「クラス替え」があります。新学期は、子どもたちのまわりの環境が大きく変わります。

また、日本の小中学校は、自治体によって、1年の分け方が、2学期制と3学期制の学校があります。

● 授業を教えてくれるのは、小学校では担任の先生が多いです！

日本の小学校では、担任の先生が、ほとんどの教科を教えてくれますが、中学校では、各教科専門の先生が教えてくれます。

しかし、今後は、小学校でも、中学校と同じように、小学校5・6年生の授業で、段階的に教科担任制を導入していくことになりました。

愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 TEL: 0566-26-2219
e-mail: gendaigp@aecc.aichi-edu.ac.jp FAX: 0566-26-2566

愛知教育大学 リソースルーム



このリーフレットは日本語版のほか、ポルトガル語版、スペイン語版、
タガログ語版、中国語版、ベトナム語版、英語版があります。
イラスト協力: 古屋柚 森嶋純菜 山田優花

国際ファミリーのための

日本の小学校に入学する前に

—教育制度編—



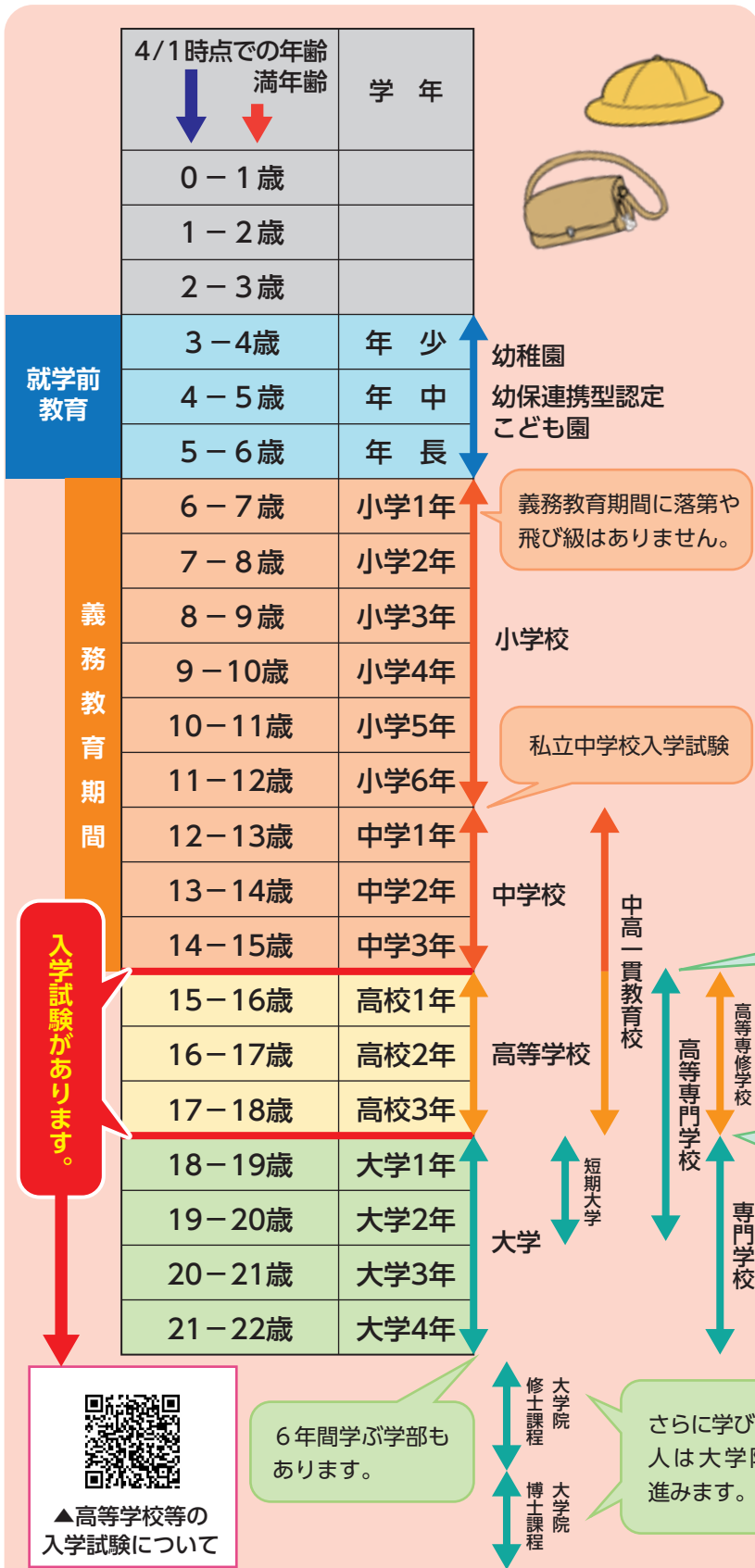
小学校入学、その先は…？

国際ファミリーの多くは、親も子も初めて日本の教育制度を経験します。日本では、中学校を卒業したあと、自分で進むべき進路を選びます。高校に進学するためには入学試験があり、試験に合格した人だけが高校に進学することができます。お金もかかります。日本では、自分が進みたい進路に進学できるように、勉強を積み重ね、お金を準備していきます。親子で一緒に進路にむけた準備が必要です。

これから小学校に入学する子どもには、その先、どんな進路が待っているのでしょうか。

★「生活編」「学習編」「教育資金編」も併せてご覧ください。

日本の教育制度



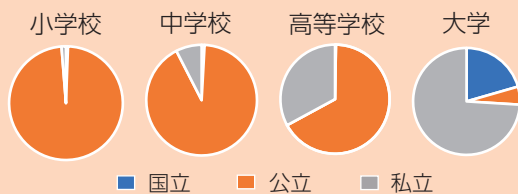
保育園

0-1歳	未満児
1-2歳	
2-3歳	
3-4歳	年少
4-5歳	年中
5-6歳	年長

保育園とは就学前に保育を必要とする子どもたちが過ごす場所です。

小学校ではほとんどの子どもが公立に行きますが、高等学校・大学と上がるにつれ、私立に行く人が増えます。

在籍人数別



参考：令和2年度学校基本調査(文部科学省)

高等専門学校では工業・商船などの専門知識を学びます。

高等専修学校や専門学校では仕事につながる知識や技術を学びます。

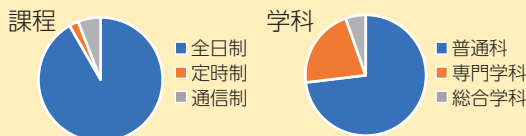


▲高等専修学校や専門学校について

働きながら定時制や通信制の高等学校に行く人もいます。

高等学校では全日制に進む人が多いです。普通科に行く人が多いですが専門学科や総合学科もあります。

在籍人数別



参考：令和2年度学校基本調査(文部科学省)

☆上記は主な学校区分です。学校は4月に始まり3月に終わります。

☆4/2から翌年4/1に生まれた子どもが同じ学年で学びます。

☆満年齢とは自分が生まれた日を0歳、それ以降は1年ごとに誕生日を重ねた回数を年齢とする数え方です。



▲高等学校等の入学試験について